

2021年1月実績概要(メモ)

(2021. 2. 22)

定修がほぼない状況下のもと、エチレンほか各誘導品の生産は前年を上回る品目が過半となる。

1. 生産動向

イ) エチレン 541,400トン

前月比 + 1.3% (+ 6,900トン)

前年同月比 + 4.4% (+ 22,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	-	-
定修要因等	▲ 1.3%	▲ 5.1%
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 2.6%	+ 9.5%
生産増減率	+ 1.3%	+ 4.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.0%* → 当月99.4% ← 前年同月91.0%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、稼働率要因や定修規模差からLDPE、PP、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼン、キシレンなどの10品目がプラス。HDPE、SM、EO、EG、BRなどの7品目は主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因を主としてLDPE、PP、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、ANなどの9品目がプラス。塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの8品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、定修規模差や稼働率要因からLDPE、PPはプラス。HDPE、PSは主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因を主因にLDPE、PP、PSでプラス。HDPEは前年並みとなった。

ロ) 国内出荷

当月は、国内製造業の生産活動の持ち直しが続く一方、都市部における緊急事態宣言もあり、消費マインドの低下が見られることとなった。汎用樹脂の出荷では、例年、年始休暇に伴うユーザー側の稼働状況から前月に対して減少傾向が見られるものの、当月はLDPEが前月並みとなったほか、HDPE、PP、PSでも僅かながらの減少に留まることとなった。

前年比は、PPでは射出成形分野、繊維分野等の出荷増加からプラス。PSは雑貨・産業用分野の出荷が増加したほか、LDPEは前月に続いてフィルム分野の出荷がほぼ前年並みとなったこともありそれぞれプラスとなった。HDPEはフィルム分野の出荷減少が依然として続くも、出荷割合が大きい中空成形分野等の出荷増加もあり微減となった。

ハ) 輸出

昨年後半からの輸出の増加基調にあることに変わりはないが、当月は、中国の旧正月前の取引に盛り上がりや欠いた面もあり、LDPE、PP、PSでマイナス。前月の数量が少なめであったHDPEのみがプラスとなった。

前年比では、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにプラスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂で増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDPEは前月並み、HDPE、PSは僅かながらの上昇。PPは低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともに適正水準若しくはタイト気味へとなりつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		12月末	1月末
LDPE	+ 12,500	2.9	2.9
HDPE	+ 2,700	2.9	3.0
P P	+ 36,500	2.7	2.6
P S	+ 4,900	1.6	1.7

以上